



「克己」

長野県須坂市・大谷不動左岩壁にて。使い捨てカメラで撮影。

写真・上



つけられる。死の恐怖にのまれることなく、ただただ己を信じアックスを振るう。生きるために。

(総合政策学部4年 松村亮太 山岳部 主将)

墜ちることは許されない。墜落の衝撃は、途中捻じ込んだ中間支点をふっ飛ばし、最悪肉体は地面に叩き

表紙・絵



思うようにまだ身動きできない自分がいる。そんなうつつぶんを晴らすかのように、スケッチブックにこの絵を描きながった。その日の、陰鬱な気分と、じめじめとした湿度が感じとれるようだ。もちろん、モデルの人にはなんの関係もない、独り言である。

(法学部1年 風早啓太 美術倶楽部CA TS)

ちよつと気が減入っていた。梅雨入り前。中途半端な雨が降り、授業が本格化したキャンパスは湿気でむんむんしている。